

# 平成26年度 社会福祉法人べっぷ優ゆう 事業報告書

## 1. 法人の活動状況の総括

平成26年度は社会福祉法人による運営第1期（平成26.11.1～平成27.3.31）にあたり、法人の転換による経費増が予測され収支改善が課題となっていたが、日中活動の3事業それぞれの努力により予想を上回る好結果となった。

また、日々の利用者支援では特別大きな事故等もなく、これまで以上に利用者一人一人に向き合う積み重ねにより様々な課題に直面し、一つ一つ解決に向けた実践に取り組んできた。

### (1) 事業の実施概要と成果

#### ① 法人組織の連携

法人運営の基盤となる理事会、評議員会が新たに生まれ、「社会福祉法人」としての使命、新たな事業展開、予算等主要な運営施策の決定を担うこととなり、各事業所、職員とのより一層の連携が求められている。

当年度では予定されていた2回の理事会、評議員会を無事経過し、べっぷ優ゆうが今後取り組むべき事業の検討も始めることができた。

各事業所職員への方針理解や情報の共有についてはこれからという段階であるが、職員会議やグループ別打合せ等の場面を活用し連携を図っていく予定である。

#### ② 職員の資質の向上と倫理意識

利用者支援で大事にしたことの一つに、利用者が自分の生き方を自分で選ぶことつまり「自己決定」を大切にした支援がある。人権擁護、虐待防止等法人の倫理意識に深く関わる場所でもあり、職員による日々の実践により実体化されていくものと考えられる。

そのような目的で毎月継続してきた内部研修では、輪番制によるテーマの提起関連した問題点や支援課題の掘り下げなど、以前に比べ活発な研修会を行うことができた。

ただ、「働く意欲を高める支援の在り方」とした年間テーマに直接かかわる実践報告が少なく、支援としては「仲間との人間関係を築き、優ゆうでの生活で発生する問題の解決を支援する」といった段階での報告が多かった。翌年度の計画では別段での観点でテーマ設定する予定である。

#### ③ 支援内容の質的向上及び利用者の生活の質的向上

相談支援事業所及び専門員とも連携し個別支援計画書等に沿ってサービス提供を行ってきた。職員会議では問題となる仲間支援を取り上げ、支援内容の改善や関連する生活面での改善テーマまで整理し、実践につなげてきた。

また、利用者の自主性を育む観点から「仲間の会」の運営（年間行事等を自ら発意し自主管理する）の充実化をサポートしてきた。

#### ④ 各事業所の財政基盤の安定化

各事業の安定化には利用度を上げる、新規の利用者を確保するといった収入面で

の改善が直接的な効果をもたらすが、支援学校などとの情報交換を密にしてきたこともあってか新年度に向け就労継続支援B型で2名、放課後等デイサービスで3名の新規利用を確保することができ、他のサービス利用などで減員＝収入減となる状況を回避することにつながった。

#### ⑤ 関係機関との連携強化

社会福祉法人の認可窓口である別府市社会福祉課や障害福祉課との情報交換を始め相談支援事業を軸とした自立支援協議会や他の事業所との連携、OB利用者とのつながりによる支援学校との協力関係、あるいは地域自治会との連携などに努めてきた。

今年度は特に市障害福祉課との協働事業が採択され、一年にわたり運営してきたが別府市の関係課はもちろん他の事業所や団体、地域住民などこれまで以上の密度でイベントテーマを共有することができ、新たな関係の積み重ねとなった。今後も継続して様々な団体との相互協力、連携に取り組んで行く。

#### ⑥ 法人の情報提供の強化

情報発信のツールとしてホームページを設けており、法人の事業概要、前年度事業報告並びに決算報告などの情報を公開する事としている。

従来から「べっぷ優ゆうを支える市民の会」の「優ゆうニュース」が会員向けに情報紙として発行されているが、法人の自主・定期発行の広報紙を検討中である。

これからも発信媒体やタイミング、度数など工夫に努め必要な情報提供をより効果的に進めることが必要と考える。

### (2) 事業収支及び財産の状況（一般会計）

#### ①事業収支（年度通算）

千円

	NPO法人 H26.4～H26.10	社会福祉法人 H26.11～H27.3	年度計
事業活動収入	49,223	35,331	84,554
事業活動支出	45,262	36,938	82,200
事業活動外収入	61	426	487
事業活動外支出	5	4	9
経常収支差額	4,016	△1,184	2,832
特別収入	0	0	0
特別支出	0	0	0
特別収支差額	0	0	0
当期活動収支差額	4,016	△1,184	2,832

#### ②資産・負債比較（前期比）

千円

	前期NPO法人 H26.3	社会福祉法人 H27.3	増減
流動資産	61,596	56,669	△4,927
固定資産	19,759	27,484	7,725
資産合計	81,354	84,153	2,799
流動負債	1,203	1,828	625
固定負債	0	0	0

負債合計	1,203	1,828	625
純資産	80,151	82,325	2,174

(3) 今後取り組むべき課題

- ①利用者へのサービス提供技術の向上及び生活の質の向上
- ②職員の資質向上と事業目的の共有化
- ③施設事業の財政・経営基盤の強化及び事業運営のさらなる安定化
- ④施設建物・設備の狭隘化への対策
- ⑤今後取り組むべき新たな事業展開

2. 実施事業別の活動概要

(1) 実施事業の種類及び利用実績等

①就労継続支援B型		事業所番号	4410200069		
平成26年10月24日指定		定員	20名	契約数	30名
開所日数	264日			期首契約	30名
延べ利用日数	5,551人日	日平均利用数	21.0人/日		
備考	開設 平成19.1.1 (単独指定として)				

②生活介護		事業所番号	4410200069		
平成26年10月24日指定		定員	6名	契約数	10名
開所日数	242日			期首契約	10名
延べ利用日数	1,056人日	日平均利用数	4.4人/日		
備考	開設 平成22.7.1 (多機能の指定事業所として)				

③放課後等デイサービス		事業所番号	4450200144		
平成26年10月23日指定		定員	10名	契約数	16名
開所日数	241日			期首契約	14名
延べ利用日数	2,064人日	日平均利用数	8.6人/日		
備考	開設 平成25.1.1				

④相談支援					
地域移行、地域定着相談支援					
平成26年10月24日県指定	事業所番号	4430200628			
特定相談支援 (障害者のサービス利用、更新等)					
平成26年10月30日市指定	事業所番号	4430200628			
障害児相談支援					
平成26年10月30日市指定	事業所番号	4470200181			

(2) 就労継続支援B型 (クッキー)

クッキー作業をとおして利用者自身の主体性を育み、仲間同士のコミュニケーションや助け合いの関係づくりを支援することを目標とした。

- ①作業をとおした主体性…ゆっくりとした変化ではあるが作業の流れをつかむ力や技術的な成長は感じられた。自主的生産にはまだまだなので「任せきる日」などを設け、失敗歓迎、できることを増やす取組みを実践。
- ②製造以外の仕事への挑戦…「クッキーづくり」への誇りや意欲、新たな刺激をつかんでもらいたい狙いから販売、配達、材料仕入などの仕事にも経験を積んでもらった。中でも一度の試みであったが新作クッキーの企画にチャレンジした。(商品アイデア⇒試作)
- ③障害特性や健康状態への合理的配慮…十分にできたとは言えないが、身体機能低下による危険防止や仲間相互の不安定な関係にある場合など適宜職員がサポートに就き、仲間一人一人に気配りしてきた。
- ④仲間同士の関係づくり…障害によるコミュニケーションの制限や表現と真意のずれなど仲間の意志や気分をつかむのは大変難しい。職員が仲間相互の「橋渡し」的役割を担うためには、もっと個々の仲間との関わりを積み重ねる必要があると痛感させられた。

### (3) 就労継続支援B型、生活介護（紙漉き）

なかま支援を真ん中に～「仲間支援ありきの紙すき業務」を目標に丁寧な利用者との関わりに心がけてきた。

その姿勢の効果なのかは分からないが、週一度の施設外での販売のみで他の仲間と交われなかった利用者が帰りの会に参加できるようになった、仲間の表情や発語から気持ちを読み解くことができるようになりより深いコミュニケーションが取れるようになってきた、特定の職員との関係だけではなく他の職員とも信頼関係が芽生えてきた。

総じて仲間たちが「穏やかになった」（不安やイライラの反発行為の落ち着き）ことはそれまでの対処療法的対応から背景にある心の状態を探り、実践し他の職員とも共有が図れたからかと感じている。

一方で、紙漉き、商品づくり、名刺等主力の作業で利用者の参加機会が作れない場面もあり、利用者が仕事にやりがいを感じる状況を生み出すことが求められる。

### (4) 放課後等デイサービスなかま

初めて正職員3名で迎える年度となり、個別支援計画や年間行事、職員研修等に本格的に取り組んだ。

#### 季節の行事

4月	桜の壁画作り	7月	七夕	12月	クリスマス会
5月	こいのぼり作成	10月	団子づくり	1月	凧作り
6月	アジサイ作成	11月	落ち葉を使い壁画作り	3月	ひな人形作成 (ちぎり絵)

運営面で重点的に取り組んできた内容は、以下のとおりである。

- ①児童への支援状況の共有化…正職員間で要点の整理を図り職員会で共有、一定の効果があった。

②運営計画（行事計画）の組立てと情報の共有…月間計画から週間計画に切り換え行事や送迎担当・時間など確実な予定確認でスムーズな動きとなった。

③自主的な職員研修の実施…月1回、障害児支援関連の教本を読み合わせ、内容の確認、意見交換等を行い理解を深め合った。

反省点として、職員の体調不良、退職等による人員減などで児童への支援に影響が出たり、体づくりや集団活動の目的で始めた体育館での運動が途中でやめざるを得なかったこと等職員集団としての支援の安定性に欠けていたことで次年度以降の課題となった。

#### （5）べっふ優ゆう相談支援センター

相談支援事業の制度変更から2年目、本格的な稼働の年となり利用者は65名となった。（利用サービスの更新、モニタリング）

今年度の活動テーマは、①「地域生活の充実」（家庭、作業所に加え第三の居場所づくり）として、移動支援を活用した週末等休日の過ごし方の工夫に3ケースで取り組んだ。

もう一つのテーマ、②「将来的な自立生活に向けての準備」（就継B型から一般就労を考えた自立訓練への転換）では、2ケースについて実施された。

今後、障がい児・者のさまざまな生活課題や発達保障への取組みに対応していくために、他の事業所や相談支援専門員、自立支援協議会など地域の機関、専門家、民間事業所等との連携を図っていく必要がある。

#### （6）苦情、事故

- ・苦情受付           なし
- ・事故報告           なし

### 3. 理事会・評議員会開催状況

#### （1）理事会

第1回理事会 平成26.11.30 7名出席（1名書面表決）

- ・社会福祉法人認可の経緯及び評議員の選任について  
（この後、評議員会を開催）
- ・理事長の互選及び職務代理者順位の決定について
- ・平成26年度予算案について
- ・法人の諸規定制定について
- ・理事長専決事項の報告について
- ・その他（①役員等の費用弁償等に関する規程②施設長（管理者）の任命）

第2回理事会 平成27.4.5 7名出席

- ・平成27年度事業計画について
- ・平成27年度予算について
- ・理事長専決事項の報告について
- ・その他（①中期（3年）として取り組むべき新たな事業②法人本部での「企

画会議」のあり方)

(2) 評議員会

第1回評議員会 平成 26. 11. 30 14名出席 (1名欠席)

- ・社会福祉法人認可の経緯及び役員を選任について  
(この後、役員、評議員に委嘱状交付)
- ・平成26年度予算案について
- ・法人の諸規定制定について
- ・理事長専決事項の報告について
- ・その他 (①役員等の費用弁償等に関する規程)

第2回評議員会 平成 27. 4. 5 15名出席

- ・平成27年度事業計画について
- ・平成27年度予算について
- ・理事長専決事項の報告について
- ・その他 (①中期(3年)として取り組むべき新たな事業)

(3) 役員の変動等

なし

4. 職員研修の状況

(1) 事業所内研修

- ・多機能事業所職員研修

5月より毎月第一金曜日 計9回 輪番によるテーマ提起

9月外部講師による研修 (9/5 きょうされん理事社会福祉法人ウイズ町田  
なないろ理事長 小野 浩氏 )

(2) 事業所外研修

- ・日本相談支援専門員協会研修 (東京) 平成 27. 1. 25 出田
- ・きょうされん九州ブロック大会 (北九州市)  
平成 27. 2. 14-15 瓜生田、出田、松川 3名 [利用者] 中井、松田2家族

(3) 総合支援法等制度関連研修

- ・大分県 サービス管理責任者研修 (介護) 平成 27. 1. 22 田中

5. 借入金

なし

6. 補助金

(1) 施設・設備整備関係

なし

(2) その他の補助金

- ・別府市 「泉都別府ツーリズム支援事業補助金」 ¥915,000

(H27.3.4 受領)

- ・大分県共同募金会 ¥ 5 4 , 6 0 0 (H26.12.19 受領)

## 7. 登記事項

- ・社会福祉法人変更登記 資産総額の変更 (平成 27 年 3 月 31 日現在)  
平成 27.6.1 予定

## 8. 監 査

### (1) 法人監事による監査

- ・平成 27.5.18 事業報告書、決算、現金出納帳等現金扱いの経理状況

### (2) 別府市等関係行政による監査

- ・なし (平成 27 年度予定)